

3-1555~3-1561 ㇿページ
1555

水野出羽守家来

吉田喜左衛門

右之者事兼而御預之林昌之介其外賊
徒沼津を脱走之節隊長をも乍勤卑
怯之所置武士道を失ひ候段不屈之至
依之追放可申付旨被仰出候事

六月

戊辰七月十七日就軍

五月廿九日認防州山口より久保無二三

親父久保武助之書牘要用急キ

一書呈上仕候大暑之節ニ御座候得共先以

御尊家様被成御揃益御清福被為渡

奉恐賀候随而小生家内無事消日打過候

乍憚御放念可被下候將其後者意外御無

音申上多罪御仁恕奉仰候然ル処

越後国賊兵盛之由ニ付右追征として

1556

小生干城隊六七百人引連レ六月十日より

萩岩出帆蒸気艦ニ而他行候間越後

平定なくては帰国六ヶ敷何レ当国

帰国ハ相成兼候義と奉存候平定ニ及

候て陸地より帰国仕候間其節ハ紀州ニも

立寄可申与奉存候家内も無事娘も至而

健ニ御座候間此段御安慮可被下候家内より

も書状差上可申様申居候得共何分取

急候ニ付此度ハ失敬仕候左様御承引

被成下候先ハ右得貴意候

草々頓首

五月廿九日

久保無二三

御両所様

坐下

尚々□□候得は天時御厭被遊候様奉
祈候猶御一門様方へよろしく御鳳
聲奉希上候

右書書牘久保武介より一見いたし候やう
さし越候ニ付一覽仕候処書風俗

1557

気相はなれ且達筆雅文自然
と豪傑之氣象相顕感佩其

事ニ御座候

是ハ当八月故郷へ帰り候やう当春
約諾之処右出陣ニ付先当年之帰国
ハ覚束なく候ニ付小生方へも書牘見
せ候事ニ御座候

戊辰八月五日久保武介より新聞

越後国出張出雲崎より七月八日出

久保無二三より之書牘うつし

残暑嚴敷御座候得共 御両親様被成

御揃益御清榮被為凌奉恐賀候随而小生

無事罷在候乍憚御休意思召可被下候先達

而申上候通り小生手勢引連六月十五日

長州萩ヨリ軍艦ニ乗組同十八日越後

国着帆廿日お戦争相始メ昼夜戦

1558

争有之候得共格別勝負も無之乍併

味方追々勝利ニ而長岡城ヲ責落

敵も大イニ困窮致し当月中ニも越後

国も平治可仕と奉存候右ニ付当年帰

国ニ難相成哉と奉存候此段左様御承

知可被成下候越後も当年は洪水ニ而田地
も余程荒レ且戦場と相成候ニ付百姓ハ
大イニ困^九申候加之砲撃之事故百
姓町人共丸ニ当り死傷之者も沢山有之
中ニは乳呑子有之母鉄砲ニ当り死テ
子ハ乳ヲ尋啼居誠ニあわれ之次第ニ御
座候右ニ付は紀州辺は戦争之患無之
誠ニ幸之事候兎角時候專一御用心
奉希上候当年中ニは越後奥州相平
ケ帰国仕度奉存候先ハ時候御見舞
迄如斯御座候 草々頓首

七月八日

越後国出雲崎

久保無二三

久保御両親様

玉下

1559

二白申上候兎角天時御厭被遊候様奉祈
念候此度ハ陣中之事ニ付武平殿御方其外
へ書状差出不申候間可然様御鳳聲奉希候以上
紀州日高郡津井村 越後国出張所

長藩

久保武輔様

同無二三

要用書

七月八日

從京師賃済

但し飛脚下ケ紙
御用状判取

無滞早々御届ケ可被下候 御継所中

京三条柳馬場
順番飛脚所
明石屋清五郎

辰八月十一日 翠湾君より略

陳ハ久保子之来信写し御越被下拝見実
いさましき事追々官軍御勝算相立候由
一大快事難有奉存候然ニ別紙之新聞若
山より来り候由或人より差越し候最も偽作相違
無之ヶ様之事共流布いたし候が
御国難之第一重罪之者と不堪切齒ニ
さてく愚成哉く略

別紙左之通り

奥州仙台城内ニ而輪王寺宮御被仰有之趣

1560

之よし

- 一 輪王寺一品宮御北朝宮ト奉称東帝ト申上候由
 - 一 九條右大臣殿関白宣下有之候由
 - 一 澤三位殿醍醐中将殿伝奏議奏任被仰付候由
 - 一 仙台米沢会津佐竹南部五侯中納言ニ
昇進被仰付候由
 - 一 秋田万之助從四位侍從被仰付候由
 - 一 奥羽ニ而は年号寿延と相改候由
- 右慶應四辰八月九日吉田善之介送り来ル若山
去ル大家より伝来候由申来尤偽撰明々白々也

辰八月十八日書信

秋霜鬱陶敷御座候益御清穆被為在
奉恐賀候此程ハ新文類進之難有奉存候
当郡令衆も大新聞好ニ被成候由ニて取備
一 覧候処大ニ被相喜候事ニ御座候久保無二三
丈夫之来信確説妙々ニ而早速栖原へ
も遣し申候定而相喜候事と奉存候此小冊江
戸より来り候よしニ候得共例之東夷説ニて
取こも不足事之よし海翁ニより申来候外ニ輪
王寺 宮を東帝と申か由の妄説も

1561

有之由ニ候へ共世人之惑と相成候事ニ付写
留も不仕候ヶ様之妄説を喜候様之風

儀ニ而は御疑念氷解之期も有之
間敷歎息無窮之事ニ御座候仍而勿々
申上略候頓首

八月十七日

翠湾□夫

待月楼君

尚々祭礼之残鮓甚失礼ニ御座候得共聊呈
上御夜酌之御取合も相成一笑被下候ハ、大悦可仕候

海翁より江戸より下来ルよし 尤外方へ

宇都宮飛脚来彼地ハ砂糖類不怪能相

捌候由奥州筋より宿々へ参り候趣白川辺之

様子承り候処彼所ニては度々戦争之由奥

羽勢地之利を能相心得居候間戦毎ニ官軍

怪我人多く候由併当時ハ白川ハ官軍鍋島

侯何之介殿御固被出居候由鍋島侯野

州鎮台と歟申事之由宇都宮ニも鍋嶋侯

御固人数有之由 奥羽勢ハ白川より十八

町先ニ川有リ此処ニ相固居候由